



◆海外市場調査の Web サイト『グローバルマーケティンラボ』もご覧ください。

<http://www.global-marketing-labo.jp>

近年のマーケティングの対象は国内市場中心からグローバル市場へと広がっております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は  
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

---

WEEKLY NEWS

---

◆ゴム製品：住友理工がドイツの自動車用防振ゴム拠点で R&D センターを起工  
(6月8日)

住友理工は、自動車用防振ゴムの研究開発・販売子会社 Sumiriko AVS Germany GmbH (SRK-GER、ドイツ)で、新設する研究開発棟「SRK-GER R&D センター」の起工式を行なったことを発表した。

同センターの新設は、世界的な技術革新に寄与し、欧州自動車メーカーを中心とする新たなニーズに応えるため、住友理工グループがグローバル・システムサプライヤーとして飛躍するロードマップの重要な通過点と考えている。また、センターでは、従来の研究開発に加えて、今後はさらに電動車における内装品の快適性能を高めるシステム開発などにも取り組み、新商品の創出につなげる。

新研究開発棟「SRK-GER R&D センター」の投資額は約 1,000 万ユーロで、2019 年 9 月の竣工予定としている。

◆燃料：DIC がインドネシア子会社のボイラ用燃料にパーム椰子殻を採用  
(6月8日)

DIC は、温室効果ガスである二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の削減を目的に、インドネシアの 100%子会社である PT.DIC Graphics で顔料を生産するカラワン工場において、場内で使用する熱エネルギーを得るボイラ用燃料の一部を石炭からパーム椰子殻(以下、PKS)に置換する取り組みを 2018 年 1 月より本格開始したことを発表した。

PKS は、CO2 排出を抑制する有効な手段としてグローバルに注目されている。インドネシアは、世界第二のパームオイル生産国であり、オイルを抽出した後の PKS が豊富に発生する。

同社グループは、現用の石炭よりもコストはかかるが、PKS が石炭と同じ固形燃料であるとともに、発熱量がほぼ同等であることから採用したとしている。

◆潤滑油関連：三洋化成工業が韓国で潤滑油添加剤『アクルーブ』を生産（6月7日）

三洋化成工業は、主力事業の一つである潤滑油添加剤『アクルーブ』シリーズの世界的な需要増に対応し、韓国において新たな合弁会社「韓国三洋化成製造株式会社」を設立、生産能力 1.1 万トン/年規模の生産設備の新設を決定したことを発表した。

『アクルーブ』は、自動変速機用潤滑油（ATF）向けや無段変速機用潤滑油（CVTF）向けの需要増に加え、エンジンオイル向けでも需要が拡大している。

今回の投資決定により、2018 年 7 月に新会社を設立、2019 年 12 月の操業開始を予定しており、日本（京都工場・鹿島工場、計 5 万トン/年）、米国関係会社（サンヨーケミカル・アンド・レジンズ LLC、0.4 万トン/年）、中国関係会社（三洋化成精細化学品（南通）有限公司、0.5 万トン/年）に加え、4 カ国目の生産拠点となり、総生産能力は 7 万トン/年になる予定である。

同社グループである韓国サンノプコの敷地内で設備を新設し、投資金額は約 20 億円の予定としている。

◆建材：帝人及び秩父ケミカルが耐熱性と耐久性に優れた透水性舗装部材を開発（6月7日）

帝人と雨水貯留浸透施設の製造・販売を手掛ける秩父ケミカルは、施工性と貯水浸透能力の高さに加え、アスファルト直下にも施工することができる耐熱性と耐久性に優れた透水性舗装部材「透水セル(仮称)」を共同開発したと発表した。

近年、気候変動に伴う集中豪雨により都市部を中心に浸水被害が増加しており、その対策として雨水貯留槽などの雨水浸透施設の地中への埋め込みが行われている。

今回開発された「透水セル」は、約 150℃の耐熱性を実現し、アスファルト舗装への適用が可能、高い耐圧縮強度とクリープ強度を有し、実用に必要とされる耐久性を十分に備えている。また、優れた雨水貯留浸透性能と導水性能を備えている。さらに施工時に深く掘削する必要がないため施工が簡単で、地下水位の高い地域にも適用できる等の特徴を有している。

帝人では高付加価値の樹脂部材ビジネス創出を推進するとしており、秩父ケミカルでは「透水セル」を駐車場や歩道などに向けて幅広く展開し、数年以内に年間 5 万㎡の販売を目指すとしている。

◆植物性原料：デュポンがアルギン酸事業を JRS Group に売却(6月6日)

デュポンのニュートリション&ヘルス(以下、デュポン N&H)は、同社のアルギン酸事業の売却について欧州委員会(EC)の承認を得たことを発表した。売却先は、植物性の原材料を主原料とする機能性添加物の大手製造会社、JRS Group である。売却は 2018 年第 3 四半期に完了する予定としている。

JRS Group との取引はデュポン N&H のアルギン酸事業が対象となり、これにはアルギン酸純品と緩衝塩含有アルギン酸、ペクチン-アルギン酸ブレンドの特殊ポートフォリオ、関連するランデルノー生産拠点、そして顧客関係が含まれる。同社は、取引の完了後も引き続き、FMC H&N アルギン酸ポートフォリオを通じてアルギン酸市場でサービスを継続していく予定としている。

◆炭素繊維：帝人が米国の炭素繊維工場新設に着工(6月4日)

帝人は、米国に新設予定の炭素繊維工場について、建設着工したことを発表した。

この工場は、サウスカロライナ州に設立したテイジン・カーボン・ファイバーズが運営するもので、稼働時期は 2020 年度中を予定している。

同社は、世界的な環境規制強化に伴う環境負荷低減ニーズに対応するため、航空機や自動車などの用途に向けて技術開発を推進し、炭素繊維事業の拡大を目指している。

今後、2030 年頃までに約 600 百万米ドルを投じ、従業員 220 人規模の事業所へと拡大していく予定としている。

◆エンジニアリング：東洋エンジニアリングが茨城県でバイオマス専焼発電所を受注(6月4日)

東洋エンジニアリングは、大林組と共同で、大林神栖バイオマス発電が茨城県神栖市に計画する 50MW 級バイオマス発電所建設プロジェクトを受注したと発表した。

同プロジェクトは、主に木質ペレットを燃料とするバイオマス専焼発電所を建設するもので 2021 年の完成予定である。

発電設備は、再熱方式を採用した高効率なバイオマス専焼発電設備で、同社は大林組と共同で、発電設備一式の設計、機器資材調達、建設工事、試運転までの EPC 業務を一括請負で実施するとしている。

◆電子材料:デクセリアルズが AMTI の株式を取得(6月4日)

デクセリアルズは、アドバンスト マテリアルテクノロジーズ株式会社(AMTI)の株式を取得したと発表した。

デクセリアルズは、エレクトロニクス領域を中心に事業を展開し、自動車、通信・半導体、ライフサイエンスなどの成長分野での事業拡大を図っている。これらの分野では、自動運転、IoT など高精度センサーの需要拡大が見込まれている。一方、AMTI は、高度センサーに使用される圧電材料であるチタン酸ジルコン酸鉛(PZT)薄膜の性能を高める材料設計とスパッタリング技術を有しており、高精度センサーの大幅な性能向上・小型化を可能にする。

デクセリアルズは、エレクトロニクスをはじめとする各領域で培ったマーケティング、生産・品質管理の知見を生かして AMTI の支援が可能であり、さらに AMTI と共同で新しい無機材料を開発することにより同社要素技術の発展に貢献するとともに、同社事業の拡大を目指すとしている。

◆価格改定

- ・日本触媒が高吸水性樹脂の海外向け価格を次期契約分より値上げ  
値上げ幅は、15%以上
- ・クラレが水添スチレン系エラストマー、TU ポリマーのグローバル価格を6月上旬より値上げ  
値上げ幅は、0.25USドル/kg
- ・プライムポリマーがポリエチレン及びポリプロピレンを7月1日納入分より値上げ  
値上げ幅は、20円/kg以上
- ・住友ベークライトがポリカーボネート樹脂製品ならびにポリカーボネート樹脂関連製品を7月1日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、8%以上



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

◆メールの設定により、読み難くなることがございます。ご容赦ください。

◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ [h-ikeda@kohken-net.co.jp](mailto:h-ikeda@kohken-net.co.jp)

